

JST、さくらサイエンスプラン インドネシアで初のSSC同窓会を開催

科学技術振興機構(JST)は2014年から「さくらサイエンスプラン(SSP)」を実施しており、2018年度末現在で約2万6千人の優秀な若手理系人材を、アジアを中心とする41カ国・地域から招へいしている。JSTではSSPの事業効果を高めるために、招へいた人材の同窓会ネットワークの構築を進めている。2018年にはインド、19年にはスリランカ、ベトナム、マレーシア、インドネシアで順次、さくらサイエンスクラブ(SSC)の現地同窓会を立ち上げてきた。

また、日本においても、再来日者による第2回同窓会を19年11月に開催した。SSP事業での招へいは短期で、また1グループは10人程度と少数であり、同じ国の出身でない人も、ほとんどの参加者はお互いを知らない。そのため、同窓会の組織化と定期的な同窓会開催が大きな意味を持つといえる。

同窓会幹事会の発足

インドネシア同窓会総会に先立ち、公募により立候補した幹事候補14人による幹事会を開催し、今後の同窓会活動の進め方について熱心に議論した。その結果、2人の主幹事候補が選ばれ、同窓会終了後にも幹事団が集まり議論を深めた。



集合写真。インドネシアでSSC同窓会初開催

第1回インドネシア同窓会は、19年12月11日午後、ジャカルタ市内で開催された。今回の参加者は同窓会メンバー163人および来賓、関係者など計187人となり、過去最大の同窓会となり、大いに盛り上がりがあった。同窓会では、甲田彰JST理事による主催者挨拶に続き、石井正文駐インドネシア日本大使、インドネシア教育文化省中等教育部局長のジュアンダニルスヤ学生担当局長、インドネシア研究技術省のナダ協力・広報部局長の挨拶があり、日本学生支援機構(JASSO)インドネシア事務所のリンナイ教育アドバイザー1からは日本留学に関する説明がなされた。

続いて、直前の同窓会幹事会で相互承認された主幹事2人と13人の幹事からなる候補者が紹介され、各自の意図表明ののち、幹事全員が拍手で承認された。

これに続き公募により選抜された5人の同窓会員により、インドネシア地方都市でのさくらの経験を活かした子供達への教育や、訪日後のキャリアパスへの効果等、熱のこもった発表がなされた。

トップ大学の訪問

今回、JST関係者は現地滞在中にインドネシアの教育文化省、研究技術省、LIPPI(インドネシア科学院)および同国でトップかつSSP招へい者数の多い3大学(バンドン工科大学、ボゴール農業大学、インドネシア大学)を訪問し、SSPに対する、より一層の協力とSSC同窓会への支援を依頼した。

石井駐インドネシア日本大使

各大学においては、大学内での同窓会の支援、またLIPPIでは組織内での支援に加え、インドネシア同窓会全体への支援を依頼し、先方よりSSP事業全体に対する一層の協力推進に努めることなど、同窓会支援に協力的な姿勢が示されたことは大きな成果だった。

甲田JST理事

ジュアンダニルスヤ学生担当局長

